

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300436	
法人名	社会福祉法人 健祥会	
事業所名	グループホーム 笑顔毎日	
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大知淵10番地	
自己評価作成日	平成30年9月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階	
訪問調査日	平成30年11月21日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*センター方式を活用し、利用者個々のライフスタイルを全職員が共有することで、利用者・家族のニーズに応じたケアプランを作成している。また、様々な体験ができるよう、施設周辺の散歩や食材の買い出し、喫茶店や外食など「日常的な外出支援」を推進し、誕生日には個々の希望を叶えるための取組等を行い、新しいことにチャレンジできるように支援している。ゆとりあるケアの実践に努め、生活の中では利用者が主体であることを大切に、互いに悩み・助け合い・喜べる関係づくりに取り組んでいる。*職員は、法人内外の研修を受講できる機会を設け、個別ケアに対するサービスの質の向上に努めている。*事業所周辺には、ケアハウスや小規模多機能居宅介護支援事業所があり、合同でイベントを開催したり、入居者の日常生活への幅が広がるように協働している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域住民の協力を得て、同一法人が運営するサービス事業所と合同で、納涼祭や体育祭、避難訓練等を開催するなどして、地域住民と良好な関係づくりに努めている。利用者は、ユニット間を自由に行き来し、一人ひとりが居心地のよい場所を見つけ、くつろいでいる。また、職員は、利用者一人ひとりの行動の背景にある思いの把握に努め、外出支援を積極的に行ったり、利用者とともに食事の準備をしたりしている。職員で相互にスピーチロックを確認し、介護力強化に力を注いでいる。医療との連携強化に努め、利用者の体調管理に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を一日の始まりである毎日の朝礼にて行うことで、利用者・家族との絆や健やかな生活を支援することを介護方針とし、日々実践に向け取り組んでいる。	事業所は、理念を支援の基本と捉えている。職員は、日頃の業務のなかで、理念を確認しながら支援を実践している。地域のなかで、利用者が健やかに暮らせるよう、事業所と地域との関係性を重視した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の納涼祭や敬老会(3施設)では、地域住民の参加を募り交流している。また、日々の暮らしの中で散歩に出掛けたり、食事処やスーパーへの買い物に出かけ、日常的な関わりの中で交流を図っている。	事業所は、地域の敬老会や秋祭り、近くのグループホームの芋ほりへ出かけたり、同一法人の運営する納涼祭や運動会に参加したりして、地域住民や中学生、ボランティアと交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を深めていただくため、事業所のキャラバンメイトが中心となり「認知症サポーター養成講座」を開催し、寸劇等を交えながら分かりやすい内容で実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域住民代表・市職員・包括支援センター職員・有識者・管理者等で構成され、事業所の現状や取組、利用者支援について報告している。会議で出された意見は現場のケアに活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所に関する取り組みの報告や情報交換を行い、双方向的に意見交換を行っている。出された意見は、運営面に反映し、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密に取り、情報共有に努めている。また、運営推進会議委員でもあり、年6回の参加の際は、事業所の実情を把握していただけるものと思われる。	職員は、毎月、市担当窓口を訪問し、事業所の取り組みや活動内容について報告している。市担当者から助言を得ることもある。課題解決に向け、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や事業所内研修会、委員会等で身体拘束に関する理解を深め、「ちょっと待つ」等のスピーチロックによる抑制をなくすため、日頃のケアについて意見交換を行い取り組んでいる。玄関は常に開放している。	事業所では、研修会や委員会等で身体拘束の弊害に関する理解を深めている。自由な暮らしの支援に向けて、玄関の解錠やユニット間の自由な行き来に取り組んでいる。職員は、スピーチロックによる抑制にも留意し、相互に確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や認知症ケア委員会を通じて理解を深めるようにしている。チェックリストを活用することで、自分たちのケアを見つめなおす機会となり、言葉や態度で利用者を傷つけないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、制度の理解を図っている。現在、権利擁護を利用している方はいないが、各ユニット玄関にいつでも閲覧できるよう資料を設置し、希望に応じ説明し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービス内容等を交えながら重要事項の説明を解りやすく説明し、納得と理解を得て同意していただくよう努めている。利用料等、制度改正時には同様の対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者・家族の意見・要望がないか把握し、内容によっては説明や改善を行うようにしている。意見箱の設置や第三者委員を設け、苦情・相談を受け付けている。	事業所では、利用者の職員担当制を設け、利用者や家族が、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は、職員間で話し合い、日頃のケアや介護計画等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回個々に話し合う機会を設けケアに対する意向や意見を確認し、職員間で共有し、サービスの質向上に繋げている。代表者との意見交換の場として、年1回懇談会を開催し、現場からの意見を提案している。	管理者は、毎月、職員と個別面談の場を設けている。職員の声に耳を傾け、課題解決に向けて助言や指導を行い、職員の働く意欲の向上や働きやすい環境整備に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス提供に関する意見について、個別に話し合う機会を設け、業務に活かし働きやすい環境づくりに努めている。また、資格取得に向けての支援を行い、スキルアップに繋がる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に応じた職務分掌を作成している。また、事業所外研修に参加し他事業所との交流を図り、自施設でのケアに活かすことがあれば伝達し検討を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や法人内での部会等の研修を通じて、意見交換や情報共有しながら質の向上に繋げている。また、法人内のグループホームを見学し、互いのサービスの質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所内の雰囲気を知って頂くために、利用者本人にも施設見学を勧めている。見学後、利用者との面談を行い、不安等について傾聴している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	紹介先の関係者からの情報も大切に活用しながら家族と話し合い、日頃不安に思っていることを把握している。説明や助言を行い、事業所に対する理解や信頼関係を築くことに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状に適したサービス提供が可能な事業所などの紹介や事業所の特色について説明し、選択肢を持って考えられるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者一人ひとりを大切にして、本人が得意なことを職員と一緒に行うことで、一瞬の感情をキャッチし、孤独にならないような関係づくりを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の支えとなれるよう、職員だけでなく家族にも協力していただきながら、不安の解消に努めている。また、近況について、「笑顔毎日だより」等で報告し、日頃の様子について知って頂けるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出にて買い物等をする際は、馴染みのあるスーパーへ出掛けている。また、個別誕生会では、本人が希望する場所へ職員と一緒に出掛けている。また、地域ボランティア等の受入を行い、交流を図っている。		事業所は、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との繋がりを大切にし、関係継続の支援に努めている。利用者の馴染みのスーパーで食材を購入したり、喫茶店へ出かけたりしている。友人や知人の来訪時には、ゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、リビングで一緒に洗濯物をたたんだり、塗り絵や歌をうたったりして楽しく過ごしている。孤独な空間を作らないように自然と利用者同士が輪となれるよう職員間で連携し、支援している。			

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行き、状況を把握しておくことで、事業所との契約終了後も本人の様子や家族の相談に応えることができ、他事業所へ転移された際には、情報提供を行っている。		/	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から、利用者の希望や想いを話していただけるよう努めている。コミュニケーションの困難な方には、言葉や表情などから想いを汲み取り意向に沿えるよう努めている。		職員は、利用者の言葉や行動を大切にしている。利用者一人ひとりの日頃の関わりのなかで、思いや意向の把握に努めている。職員は、利用者や家族から思いを聞き取り、“私の気持ちシート”を作成し、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り入所前には、利用者との面談を行い、情報収集を図るとともに、家族からの情報提供を得て馴染みの暮らしができるよう支援している。コミュニケーションを図る中で生活歴を把握しケアに活かしている。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムを把握し個別ケアの実践に取り組んでいる。また、自立支援を目指し、個々にできることを最大限活かせるような援助を生活に取り入れている。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきや様々な意見を出し合うことで、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングを繰り返し、ご本人の状態や変化に応じて臨機応変に見直している。		事業所は、利用者や家族の意向をもとに、介護計画書を作成している。3か月に1度、見直しを行っている。利用者の心身状況の変化に応じて、モニタリングを行い、随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動記録は介護計画に沿って記録している。活動記録の中で実施内容毎に記録を検索できチーム間での情報共有に役立っている。個人ファイルには医療や基本情報等を整理しモニタリングに活用している。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談内容によっては、グループ内外の事業所と情報共有し、利用者個々に適したサービスが受けられるよう努めている。		/	

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問や近隣のお店への買い物、また個別誕生会での生まれ育った土地(小学校や道の駅)へ出かけ地域住民の方と交流が図れるように取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医に引き続き受診している。日常生活での小さな異変に対し介護職員・看護職員また、利用者個々の主治医・家族と相談し、早期発見・早期治療に心がけている。	事業所は、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医や協力医療機関と連携し、利用者が安心した生活を過ごせるよう、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々のケアの中での体調変化をその都度、看護職員に伝え双方が連携して、医療と連携を図り、早期発見・早期治療に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の情報を医療機関に提供し、受け入れ先の地域連携室ソーシャルワーカーと連携し退院計画も含め、情報共有をしている。入院中は職員が訪問し、利用者とのよい関係が維持できるようにしている。家族とも情報の交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末ケアの意向を伺い事業所としてできることを説明している。日ごろから状態の変化を素早くキャッチし、医療との連携によって早く対処できるようにしている。日々の連絡も密に行うことで、家族の安心感に繋がっている。	事業所は、入居時の段階で、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を利用者や家族に説明している。利用者の心身の状態変化に応じて、そのつど、家族に確認するなどして、意向にそった支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、周知している。高齢者介護の一環として救急対応や緊急時対応の知識・技術の向上の為、研修を実施し事例(新聞記事など)を参考に職員でリスクマネジメントを行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や運営推進会議委員・消防団・消防署員などの協力を得て事業所内で年2回の防災訓練を実施し、地域防災訓練に積極的に参加している。ケアハウスに非常食・災害用品を備蓄し避難場所にもなっている。	事業所は、年2回、地域住民とともに、日中と夜間を想定した火災や地震による訓練を行い、地域との協力体制を築いている。同一法人の運営するサービス事業所と協働し、連絡網や初動体制、備蓄品を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者に対して、尊厳をもって支援している。職員同士で不適切なケアに繋がる言動になっていないか等、お互いに注意し合うことで、誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。		事業所では、定期的に、利用者の人格の尊重やプライバシー保護に関する勉強会を開催している。利用者への声かけや日頃の支援のなかの気づきについて、意見交換を行い、改善に向けて取り組んでいる。利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お楽しみ献立や日々の過ごし方等、自己決定ができるよう支援し、誕生日のプレゼントも本人の欲しい物を用意している。言葉では十分に意思表示が出来ない方には表情や仕草から想いを汲み取り判断している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意向やペースを大切に生活を送れるよう支援している。一人ひとりの気持ちを最優先に考え、無理強いはしないよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの櫛を用意しておくことで、自分で鏡を見ながら髪をとかし、身だしなみを整えている。中にはネックレスや指輪、お化粧をして一日が始まる方もいる。外出する時は個々におしゃれをして出かけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで調理することで、リビングに調味料の香りが広がり、食欲増進に繋がっている。味付けに関するアドバイスや野菜の下処理等を一緒に手伝っていただき、楽しく食事の準備ができるよう援助している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による、栄養バランスのとれた食事を提供している。食事や水分摂取量を記録し、利用者個々の状態に合わせて食事の形態や食器を工夫している。また、定期的に体重測定を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアの中で、それぞれの状態を把握しケアを実施している。また、月1回歯科衛生士による指導をもとに、歯間ブラシ等を活用しながら本人の状態に合わせた援助している。			

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。また、プライバシーに配慮し、羞恥心を傷つけないような声かけを行い、トイレへ案内している。	事業所では、iPadを活用し、排泄のチェックを行っている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、過剰な声かけにならないよう配慮している。トイレでの排泄に向けて、羞恥心を傷つけない声かけや誘導を実践している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後は、牛乳やヤクルトを飲用している。水分を嫌がって飲まない方には好みの飲み物を用意し「おいしい」と思って頂きながら、水分摂取に心がけ、便秘予防につなげている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴スタイルを重視し、毎日入りたい方には意向に沿うよう心がけている。また、同性介護を行い、ゆったりと入浴できるようにしている。排泄などで汚れた場合はすぐに清潔にできるように努めている。	事業所では、週2~3回の入浴を支援している。入浴日や時間帯、同性介助など、可能な限り利用者の希望に応じている。その日の利用者の心身状況に応じて、入浴が困難な場合には、全身清拭や就寝前の足浴を行い、清潔の保持に努め、気持ちよく眠れるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、休みたい時には自室に戻り休息できるようにしている。夜間良眠できるように日中活動ができるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースで管理している。個人ファイルには処方箋を入れ管理し、種類・量・副作用についても把握するよう努めている。職員間で申し送りを徹底し、症状の変化があれば、医師と相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や編み物など、一人ひとりが得意としていることが出来るように役割を設けている。職員は感謝の気持ちを言葉で伝え、役割が周りの方にも役立つことを伝えている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の意向に合わせて、散歩や近くの喫茶店・スーパーに買いに出かけるなど支援をしている。家族と共に外出し美容室に行ったり、買い物や外食を楽しみにしている。家族と一緒に外出し外食をしてくることもある。	事業所では、利用者と職員が、近隣の散歩に出かけ、季節を感じたり、気分転換を図ったりしている。また、利用者一人ひとりの意向にそった外出を支援したり、年間行事としての遠出や外食を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の元、お小遣い程度のお金を持っている方もおられる。立替金で各自好きな物を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたり、手紙を出せるように支援している。難聴の方には職員が支援したり、届いた手紙が読みにくい方には、利用者の了承のもと代読している。定期的な手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境作りにつとめ、料理(調味料)の香りや正月や敬老の日には床の間を作り、鏡餅や生け花等で昔からの行事や季節感を感じてもらっている。壁面にも季節感ができるように心掛け、空調や日差しの調整にも気をつけている。	事業所では、共用空間の清潔の保持や温度調節に努めている。利用者が居心地よく過ごせるよう家具の配置等を工夫している。壁面には、季節感に配慮した作品を飾り付けている。利用者と職員は、ユニット間を自由に行き来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気の合う利用者同士で会話を楽しんだり、ゆっくりくつろいで過ごせるよう畳も用意されている。一人になりたい場合は談話コーナーで静かに過ごすこともでき、マッサージ機もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた小物や家具を持参していただき、その人らしい落ち着いた空間となるよう、居室環境作りを支援している。	事業所は、和室と洋室の居室があり、利用者の意向に沿うよう支援している。利用者の使い慣れた小物や家具を持ち込んでもらったり、家族や友人からの贈り物を飾ったりして、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を活用し、転倒のリスクを軽減している。浴室やトイレ、また必要時居室には活字や図等を付けて分かりやすくしている。危険物の管理を徹底しキャストを取り除くなど安全に生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			(すいせん) 実践状況	(ひまわり) 実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を一日の始まりである毎日の朝礼にて行うことで、利用者・家族との絆や健やかな生活を支援することを介護方針とし、日々実践に向け取り組んでいる。	理念の唱和を一日の始まりである毎日の朝礼にて行うことで、利用者・家族との絆や健やかな生活を支援することを介護方針とし、日々実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の納涼祭や敬老会(3施設)では、地域住民の参加を募り交流している。また、日々の暮らしの中で散歩に出掛けたり、食事処やスーパーへの買い物に出かけ、日常的な関わりの中で交流を図っている。	当施設の納涼祭や敬老会(3施設)では、地域住民の参加を募り交流している。また、日々の暮らしの中で散歩に出掛けたり、食事処やスーパーへの買い物に出かけ、日常的な関わりの中で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を深めていただくため、事業所のキャラバンメイトが中心となり「認知症サポーター養成講座」を開催し、寸劇等を交えながら分かりやすい内容で実施している。	認知症の人の理解や支援の方法を深めていただくため、事業所のキャラバンメイトが中心となり「認知症サポーター養成講座」を開催し、寸劇等を交えながら分かりやすい内容で実施している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域住民代表・市職員・包括支援センター職員・有識者・管理者等で構成され、事業所の現状や取組、利用者支援について報告している。会議で出された意見は現場のケアに活かしている。	利用者・家族・地域住民代表・市職員・包括支援センター職員・有識者・管理者等で構成され、事業所の現状や取組、利用者支援について報告している。会議で出された意見は現場のケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密に取り、情報共有に努めている。また、運営推進会議委員でもあり、年6回の参加の際は、事業所の実情を把握していただけるものと思われる。	日頃から連絡を密に取り、情報共有に努めている。また、運営推進会議委員でもあり、年6回の参加の際は、事業所の実情を把握していただけるものと思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や事業所内研修会、委員会等で身体拘束に関する理解を深め、朝礼等にて日頃のケアを見つめ直し、身体拘束が無くて当たり前のケアに取り組んでいる。玄関は常に開放している。	法人内や事業所内研修会、委員会等で身体拘束についての理解を深め、日々の利用者の状態について、朝礼やミーティングで話し合い、拘束がなくて当たり前のケアに取り組んでいる。玄関は常に開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や認知症ケア委員会を通じて理解を深めるようにしている。チェックリストを活用することで、自分たちのケアを見つめなおす機会となり、言葉や態度で利用者を傷つけないよう防止に努めている。	研修会や認知症ケア委員会を通じて理解を深めるようにしている。チェックリストを活用することで、自分たちのケアを見つめなおす機会となり、言葉や態度で利用者を傷つけないよう防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、制度の理解を図っている。現在、権利擁護を利用している方はいないが、各ユニット玄関にいつでも閲覧できるよう資料を設置し、希望に応じ説明し支援している。	研修を実施し、制度の理解を図っている。現在、権利擁護を利用している方はいないが、各ユニット玄関にいつでも閲覧できるよう資料を設置し、希望に応じ説明し支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービス内容等を交えながら重要事項の説明を解りやすく説明し、納得と理解を得て同意していただくよう努めている。利用料等、制度改正時には同様の対応をしている。	契約時にはサービス内容等を交えながら重要事項の説明を解りやすく説明し、納得と理解を得て同意していただくよう努めている。利用料等、制度改正時には同様の対応をしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会場で意見や要望を聞き、運営に反映させサービスの質向上に努めている。出された意見に関しては、検討し改善を図っている。	意見箱の設置や家族面会時に意見や要望を確認し、運営に反映させサービスの質向上に努めている。出された意見に関しては、検討し改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回個々に話し合う機会を設けケアに対する意向や意見を確認し、職員間で共有し、サービスの質向上に繋げている。代表者との意見交換の場として、年1回懇談会を開催し、現場からの意見を提案している。	毎月1回個々に話し合う機会を設けケアに対する意向や意見を確認し、職員間で共有し、サービスの質向上に繋げている。代表者との意見交換の場として、年1回懇談会を開催し、現場からの意見を提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境に差が出ないように、一人ひとりの役割を明確にすることで、責任感を持って業務に当たり確実に業務実績が積み上げられるような環境づくりをしている。	職員個々の勤務時間や能力に応じた職の提供をしている。資格取得に向けての支援や研修参加の機会を設け、スキルアップに繋がる環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、グループ内外の研修に参加する機会を設け、職員の質向上に繋げている。また、事業所内のOJTの実施からも理念に沿ったケアが提供できるようにしている。	職員個々の能力を見極め、理解した上で、能力が発揮できる研修へ参加する機会を持つようになっている。研修後は、朝礼等にて伝達研修を実施するとともに、報告書を回覧し職員間で共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や法人内での部会等の研修を通じて、意見交換や情報共有しながら質の向上に繋げている。また、法人内のグループホームを見学し、互いのサービスの質向上を図っている。	グループホーム部会や法人内での部会等の研修を通じて、意見交換や情報共有しながら質の向上に繋げている。また、法人内のグループホームを見学し、互いのサービスの質向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所内の雰囲気を知って頂くために、利用者本人にも施設見学を勧めている。見学後、利用者との面談を行い、不安等について傾聴している。	事業所内の雰囲気を知って頂くために、利用者本人にも施設見学を勧めている。見学後、利用者との面談を行い、不安等について傾聴している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	紹介先の関係者からの情報も大切に活用しながら家族と話し合い、日頃不安に思っていることを把握している。説明や助言を行い、事業所に対する理解や信頼関係を築くことに努めている。	紹介先の関係者からの情報も大切に活用しながら家族と話し合い、日頃不安に思っていることを把握している。説明や助言を行い、事業所に対する理解や信頼関係を築くことに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状に適したサービス提供が可能な事業所などの紹介や事業所の特色について説明し、選択肢を持って考えられるよう努めている。	現状に適したサービス提供が可能な事業所などの紹介や事業所の特色について説明し、選択肢を持って考えられるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の先輩である利用者から教わることも多く、フラワーアレンジや調理に関して、肥料の量や調理法など味付けについても教わったりしている。	昔の知恵について利用者から教わったり、励まし合ったりしながら一緒に生活することで、信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の誕生日会や外出、レク等の行事は積極的に参加を依頼したり、利用者が不安を感じている時は、家族にも協力していただき利用者を支えている。毎月送っている「笑顔毎日だより」を楽しみにされている。	利用者の生活の様子を面会時や毎月送付している「笑顔毎日だより」で報告し、家族との絆を深めている。職員だけでなく、家族にも協力して頂くとともに利用者を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切にしながら、利用者職員で馴染みのあるスーパーへ買い出し等に出掛けている。個別誕生会には、本人が行きたい場所や食べたい物を確認し本人の想いに添った支援を行っている。	利用者の友人・知人が訪問された時には、居室でゆっくりと話せる環境を提供している。また、個別誕生会にて、行きたい場所や食べたい物を確認し、本人の想いに添った支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、リビングで一緒に洗濯物をたたんだり、塗り絵や歌をうたったりして楽しく過ごしている。輪に入らなくても利用者同士の関係が築けるよう職員間で連携し、支援している。	利用者同士が上手に関われるように、職員が間に入りながら、利用者がしたいことを窮屈にするのではなく、それぞれの個性が発揮できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行き、状況を把握しておくことで、事業所との契約終了後も本人の様子や家族の相談に応えることができ、他事業所へ転移された際には、情報提供を行っている。	入院された方にはお見舞いに行き、状況を把握しておくことで、事業所との契約終了後も本人の様子や家族の相談に応えることができ、他事業所へ転移された際には、情報提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者とのコミュニケーションの中から意向や想いを汲み取り、把握するように努めている。困難な場合は、利用者本位の視点で検討するよう努めている。	日々の利用者との関わりの中で、会話や表情等から、意向や想いを把握するように努めている。把握が困難な場合には、利用者本位の視点で検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活が継続できるよう、センター方式を活用し家族からの意見等も踏まえ、馴染みの生活が継続できるよう努めている。退院後や他事業所からの入所であれば情報提供して頂いている。	入所前には利用者との面談を行い情報収集に努め、契約時にも家族より生活歴を確認することで、馴染みの暮らしが継続できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活歴や性格などを把握しながら、個々のできることややりたいことを最大限活かすことができる援助に努め、些細な反応や行動を見逃さないよう職員間で本人の暮らし全体を把握するようにしている。	日々の暮らしの中で、些細な変化であっても職員間で申し送りを行っている。一人ひとりの状態把握に努め、普段と違った行動や発言などは職員間で共有、検討し個々に応じて臨機応変に見直している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の意向を大切にす他、主治医等の意見も介護計画に反映している。日々の生活の中で気づきを職員間で検討し、モニタリングを繰り返し本人の心身の状態に応じて介護計画を見直している。	日々の生活の中で「その人にとって今何が必要なのか」の気づきや、会話の中での要望を職員間で話し合い介護計画を作成している。ご家族にも意向や要望を伺い介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動記録は介護計画に沿って記録している。活動記録の中で実施内容毎に記録を検索できチーム間での情報共有に役立っている。個人ファイルには医療や基本情報等を整理しモニタリングに活用している。	日々の活動記録は介護計画に沿って記録している。活動記録の中で実施内容毎に記録を検索できチーム間での情報共有に役立っている。個人ファイルには医療や基本情報等を整理しモニタリングに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談内容によっては、グループ内外の事業所と情報共有し、利用者個々に適したサービスが受けられるよう努めている。	家族からの相談内容によっては、グループ内外の事業所と情報共有し、利用者個々に適したサービスが受けられるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアに訪問して頂き、利用者と談笑し楽しい時間を過ごしている。地域の行事に参加して、馴染みの人との出会いを通じて、関係が継続している。	地域ボランティアの訪問や地域の敬老会やお祭りに参加し地域との繋がりを持っている。家族の他、知人や友人の訪問もあり、馴染みの関係が継続したものとなるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医に引き続き受診している。日常生活での小さな異変に対し介護職員・看護職員また、利用者個々の主治医・家族と相談し、早期発見・早期治療に心がけている。	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医に引き続き受診している。日常生活での小さな異変に対し介護職員・看護職員また、利用者個々の主治医・家族と相談し、早期発見・早期治療に心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々のケアの中での体調変化をその都度、看護職員に伝え双方が連携して、医療と連携を図り、早期発見・早期治療に努めている。	介護職員は、日々のケアの中でいつもと違う体調変化等の気づきをその都度、看護職員に伝え必要時には医療と連携を図り、早期発見・早期治療に心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の情報を医療機関に提供し、受け入れ先の地域連携室ソーシャルワーカーと連携し退院計画も含め、情報共有をしている。入院中は職員が訪問し、利用者とのよい関係が維持できるようにしている。家族とも情報の交換を行っている。	入院の際は、利用者の情報を医療機関に提供し、受け入れ先の地域連携室ソーシャルワーカーと連携し退院計画も含め、情報共有をしている。入院中は職員が訪問し、利用者とのよい関係が維持できるようにしている。家族とも情報の交換を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末ケアの意向を伺い事業所としてできることを説明している。日ごろから状態の変化を素早くキャッチし、医療との連携によって早く対処できるようにしている。日々の連絡も密に行うことで、家族の安心感に繋がっている。	契約時に、終末ケアの意向を伺い事業所としてできることを説明している。日ごろから状態の変化を素早くキャッチし、医療との連携によって早く対処できるようにしている。日々の連絡も密に行うことで、家族の安心感に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、周知している。高齢者介護の一環として救急対応や緊急時対応の知識・技術の向上の為、研修を実施し事例(新聞記事など)を参考に職員でリスクマネジメントを行っている。	緊急時対応マニュアルを作成し、周知している。高齢者介護の一環として救急対応や緊急時対応の知識・技術の向上の為、研修を実施し事例(新聞記事など)を参考に職員でリスクマネジメントを行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や運営推進会議委員・消防団・消防署員などの協力を得て事業所内で年2回の防災訓練を実施し、地域防災訓練に積極的参加している。ケアハウスに非常食・災害用品を備蓄し避難場所にもなっている。	地域住民や運営推進会議委員・消防団・消防署員などの協力を得て事業所内で年2回の防災訓練を実施し、地域防災訓練に積極的参加している。ケアハウスに非常食・災害用品を備蓄し避難場所にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内や事業所内の勉強会で尊厳について学んだり、サービスの質を考える機会を定期的に開いている。不適切ケアに気づき利用者の気持ちに寄り添ったケアができるよう取り組んでいる。	自分らしさを尊重した生活が送れるよう、本人の気持ちを大切に支援している。失禁しても辛い思いをすることがないよう、さりげなく言葉かけを行い更衣に誘っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お楽しみ献立や日々の過ごし方等自己決定が出来るよう支援している。誕生日のプレゼントも本人の欲しい物を用意している。天候が良い日には、散歩に出掛けたり、草むしりを一緒にしている。	お楽しみ献立や日々の過ごし方等、自己決定が出来るよう支援している。誕生日のプレゼントも本人の欲しい物を用意している。言葉では十分に意思表示が出来ない方には表情や行動等から判断するようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活リズムを大切にし、自由に過ごせる環境づくりに努め、個々のペースに合わせた生活が送れるよう支援している。部屋でもリビングでも本人の心地よい居場所が出来よう支援している。	個々の意向やペースを大切にして、生活が送れるよう支援している。業務をこなすのではなく、それぞれの場面での関わりの中で、柔軟に対応している。お化粧品や浴衣を着たりされ、喜ばれている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会や施設内の行事、外出の際は化粧をしたり、おしゃれができるよう支援している。外出した際には、一緒におしゃれな服を選んだりされ、外出を楽しみにされている。	毎朝の着替えや入浴時、外出時には本人の好みの洋服を選択してもらっている。中には出かける時は自分でスーツを着て家族を待っている方もいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで調理することで、リビングに調味料の香りが広がり、食欲増進に繋がっている。味付けに関するアドバイスや野菜の下処理等を一緒に手伝っていただき、楽しく食事の準備ができるよう援助している。	個々の能力に合わせて出来ることを支援している。テーブル拭き、片付けなど。利用者のなかには毎日メニューをボードに書くのを日課にしている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による、栄養バランスのとれた食事を提供している。食事や水分摂取量を記録し、利用者個々の状態に合わせて食事の形態や食器を工夫している。水分量が少ない方には、ポカリ等も提供している。	管理栄養士による、栄養バランスのとれた食事を提供している。食事や水分摂取量を記録し、利用者個々の状態に合わせて食事の形態や食器を工夫している。また、定期的に体重測定を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科衛生士による指導のもとに、ケアの方法を見直し対応している。また、口腔マッサージを行い、超音波洗浄機等を活用することで、口腔内清潔の保持に努めている。	食事前の口腔体操や食後の口腔ケアの実施と歯科医・歯科衛生士の助言の元口腔内マッサージや口腔内乾燥防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄に取り組んでいる。また、プライバシーに配慮した優しい声掛けや誘導にて支援している。排せつ用具についても家族と相談しながら検討を図っている。	個別の排泄感覚を把握したり、トイレに行きたい時のサインを見逃さないように気をつけ、そのタイミングに合わせて声かけを行いトイレに案内している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々に合わせた必要水分摂取量に心がけ、野菜が多く摂取できる献立づくりをしている。朝・夕の健康体操で自然排便に取り組んでいる。	繊維質の多い食材の使用や運動を心掛け、水分補給は個々の体重に伴った摂取量をすすめている。起床時の牛乳やコップ1杯の水(白湯)の飲用を支援し、自然排便に取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については、本人が入りたい時間を確認し、体調など本人の希望に合わせて入浴していただいている。また、菖蒲湯やゆず湯などで、季節を感じていただいたり、リラックスできるようにしている。	入浴好きな方には毎日でも入れるよう準備している。入浴時間は職員と1対1でゆったりとした時間経過の中でリラックスして入浴していただいている。1対1で対応することで色々な話しをして、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時、利用者や家族から生活習慣を聞き、個々に合った生活が送れるように支援している。また、使い慣れた寝具を使用できるように家族と相談し、良眠できる安楽な体勢についても検討を図っている。	今までの生活習慣を大切に、休みたい時には自室に戻り休息できるようにしている。夜間良眠できるように日中活動ができるように努めている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースで管理している。個人ファイルには処方箋を入れ管理し、種類・量・副作用についても把握するよう努めている。状態に変化があれば、主治医と連携しバイタル表を持参し、薬の調整を検討している。	個別の薬ケースで管理している。個人ファイルには処方箋を入れ管理し、種類・量・副作用についても把握するよう努めている。職員間で申し送りを徹底し、症状の変化があれば、医師と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたむ、調理等一人ひとりが得意とすることができるように役割を設けている。職員は感謝の気持ちを言葉で伝え、役割が周りの方にも役立っていることを伝えている。	洗濯物たたみ、家事、カラオケ等一人ひとりが得意とすることができるように役割を設けている。職員は感謝の気持ちを伝え、役割が周りの方にも役立っていることを伝えている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意向に合わせて、散歩や近くの喫茶店・スーパーに食材を買い出しに出掛ける等の支援をしている。遠出する機会も設け、ドライブや食事を楽しんでいる。	利用者の意向に合わせて、散歩や近くの喫茶店・スーパーに買い出しに出かけるなど支援をしている。家族と共に外出し美容室に行ったり、買い物や外食を楽しみにしている。家族と一緒に外出し外食をしに来ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の元、お小遣い程度のお金を持っている方もおられる。立替金で各自好きな物を購入していただいている。	家族の理解の元、お小遣い程度のお金を持っている方もおられる。立替金で各自好きな物を購入していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたり、手紙を出せるように支援している。難聴の方には職員が支援したり、届いた手紙が読みにくい方には、利用者の了承のもと代読している。	利用者が電話をしたり、手紙を出せるように支援している。難聴の方には職員が支援したり、届いた手紙が読みにくい方には、利用者の了承のもと代読している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境作りにつとめ、料理(調味料)の香りや正月や敬老の日には床の間を作り、鏡餅や生け花等で昔からの行事や季節感を感じてもらっている。壁面にも季節感ができるように心掛け、空調や日差しの調整にも気をつけている。	家庭的な環境作りにつとめ、料理(調味料)の香りや正月や敬老の日には床の間を作り、鏡餅や生け花等で昔からの行事や季節感を感じてもらっている。壁面にも季節感ができるように心掛け、空調や日差しの調整にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング横にはソファや和室があり、また、談話コーナーにはテーブル・ソファを設置し、好みの場所で自由に過ごすことができるよう支援している。	リビングにはソファを置き、気の合う利用者同士で会話を楽しんだり、ゆっくりくつろいで過ごせるよう畳も用意されている。一人になりたい場合は談話コーナーで静かに過ごすこともできる。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、家族写真等は本人が確認しやすい位置に置き、安心した生活が送れるよう支援している。また、家族と一緒に外へ出て購入した新しい物も大事にしながらかつて過ごせるよう支援している。	馴染みの深い布団や机、好みのぬいぐるみ・家族写真で居室環境を整えている。また、使い慣れた家具を好みに合わせた配置にすることで、落ち着いた空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、手すりを設置することで安全で自由に行動することができる。居室出入口には馴染みのマスコットなどを飾り、目印としている。	居室やリビングまでの導線の中で障害物等で歩行を妨げないよう、リスク管理しドアの開閉がスムーズなのか確認している。また、廊下などに水滴を落とさないよう注意し、転倒予防をしている。	